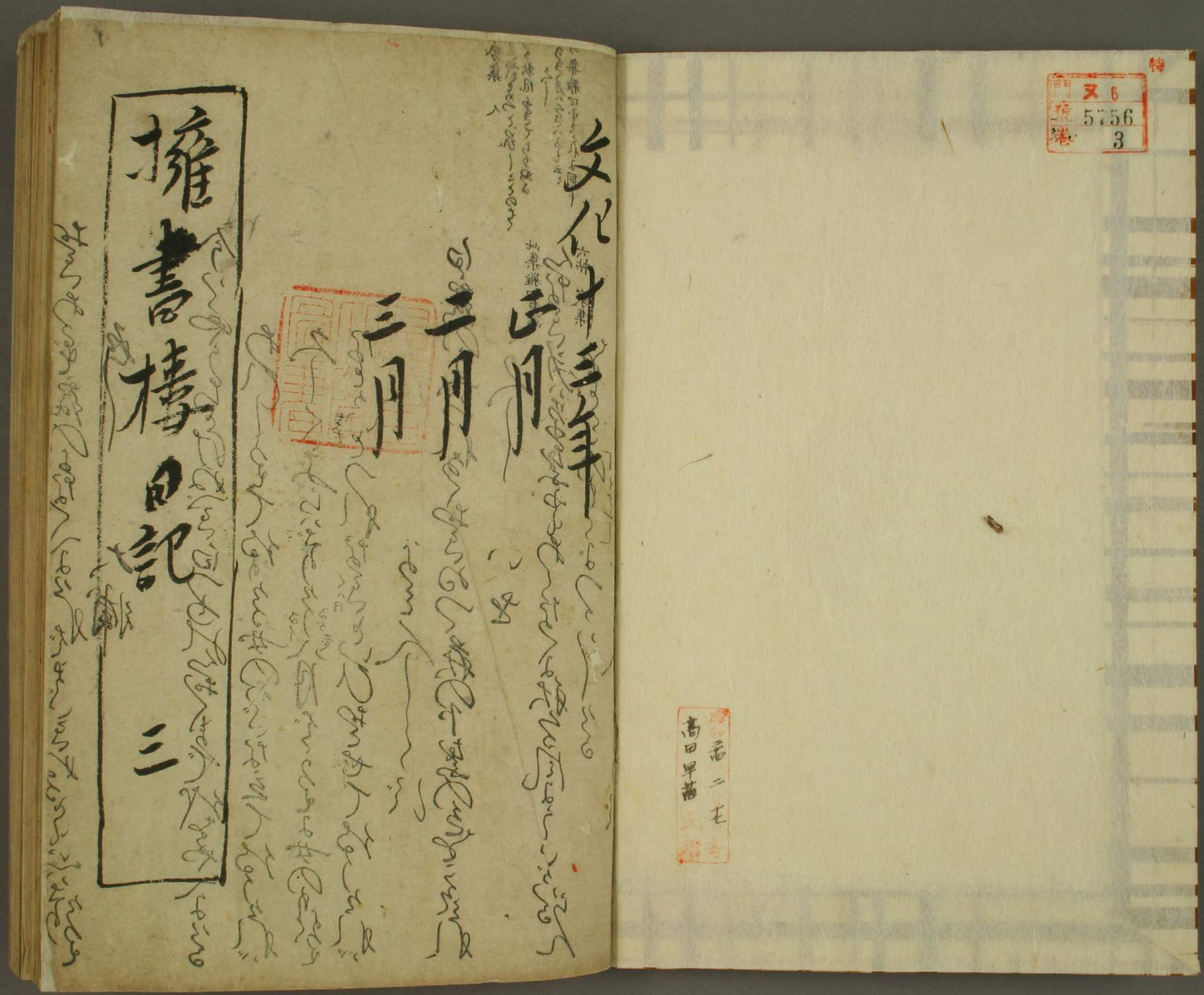
擁書樓日記

三

又6
5756
3



特
又6
5756
3

文化十三年

正月

二月

三月

擁書樓日記

三

高田早苗

權書樓日記　文化十三丙子年歳在

正月　庚寅　大

○元日辛巳さぶし　金日吉書始　さぶし

奉行柳生主膳正主　榊原主計頭主　御勘定

定吟味役篠山十兵衛主　御勘定組頭西野

嘉内主　宇治權三郎主　御代官小野田三郎右

衛門主　御徒頭神保新五左衛門主　なごめ

賀正の礼　まうづ　まみえ

[illegible]
[illegible] 春日長爵のくち
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○二日晴 御代官大岡源右衛門主 御勘定吟
味役岸彦十郎主 御勘定組頭中村長十郎
主 米倉四郎左衛門主 御勘定吟味役西
村鉄四郎主 御組頭馬場助左衛門主 [illegible]

祐筆格登代太郎 [illegible] 賢主 [illegible] 賀正
[illegible] 賢主 [illegible] 島海 [illegible]
[illegible] 参河国の万歳 [illegible]
[illegible] 二月 [illegible] 二百
文をとる

○三日晴 御勘定吟味役来田嘉大夫主 勝垣
兵衛主 御勘定組頭水野原九郎主 服部
寿蔵主 中川忠五郎主 [illegible] 三郎左衛門主 川
那改役久須美六郎左衛門主 [illegible] 賀

正の礼つとめ

○四日晴 御勘定奉行 曲渕甲斐守殿 御勘定吟味役 舘野忠四郎殿 御勘定組頭 軽部伊蔵殿 矢田堀喜左衛門殿 御代官 山田常右衛門殿 御勘定 竹嶋菅右衛門殿 なども

賀正の礼つとめ 引続て 河野大助 石脇 [illegible] 井坂鳥之介 [illegible]

○五日晴 岸本由豆流 同京三郎 まで

○六日晴 小谷三志 島海素 山本正臣 山本

亮助 大定 柳大郎 菊池左大夫 大田佐吉

鈴木佐渡 磐瀬傳蔵 坂浦茂延 などまで

きあり

○七日晴 七種菜の祝をとひつ 和賢主の許より

やうやうこあり 黒漆の古盃 骨董集の評

などおこしてやうやう黒漆盃は唐詩

礼樂志八 合巹器皆烏漆 とゝえたるより

禮記昏義 合巹而酳 儀禮士昏礼 合

巹などあるべし 昏義 用たるよし 鑑倉教

恩寺蔵の狩野宗茂の [illegible] 白柏子千壽

礼記註疏六十一の巻昏礼第四十四 共牢而食 [illegible] 合巹而酳 [illegible] 酳者漢石顯者 [illegible] 說文作[illegible] 云素酒也 [illegible] 飯反以此巹者 [illegible] 酳寅也 [illegible] 飲酒演安其氣巹偶半瓢以[illegible]

台者面熟酒之
至七增之與婦者
執一斤以酷成
云台者為酷

錦者心 用四材者

の重衡中ねる酒をすゝめ三を献やしとり比御
伽草紙のさる国氏まろぎのそつぎと
見えし人穴草紙ようろぎのすみそう
なりしとあるをあるひあるそばに黒漆れ
まはるゞ〜さて千寿が用しし猿沢氏
の遊男黄火の用しし昔義の烏漆
合巻の流をあるぞまた里色書を遊
長のもちひるもをろぎの色の黒みと
つてゑゞけしうしこゝもいろまるし 春

具鑿北三左衛門 庄倉龍陵望田陸門杉
沸茂延などまでまあ河野大助ゞりゝ又
ぢうそ

○八日晴西北の風そばゞしゝきあり河法
師ゞりいまし書肆萬笈堂うるとゝ
細井貞雄ゞ著やし空物語五巻の刊本二
冊をかうやうるとゝもし

○九日晴村田のゝ五もゝ少年正医ゞもゝ
やうそうぢうのそしゝ藤原三彦書ゞ神道
同者を迎ひて

[illegible]の子[illegible]風[illegible]しさぶり
[illegible]
稲毛屋山古澤知則　片岡寛光　なども
[illegible]今江他助　古澤安[illegible]
[illegible]河野太助やうにておこりめ
○十日晴　辰時上野御行　未時還行　片
倉鶴陵　同羊[illegible]助　[illegible]蔵[illegible]助　秋[illegible]阿秋
潮音　衣川関順庵　磐瀬醒　磐瀬百樹　など
[illegible]百樹[illegible]　北川真
顔の室船の賛よ　なき四十七

もぐのうた
うみやまあさくあるぜにもとらづ
しまめぐりもちかをえで　ひき
るもちろしまのうてあそ
ばな
磐瀬醒の春画の賛句よ
もしろうあづまとあの梅の月
○十一日晴　未の時[illegible]
[illegible]
[illegible]村田の[illegible]

あり、今江他助、古澤安子ごりあり、今
是鶴陵さうそうして加賀の塩鄉(しおごう)をわた
やうし、

○十二日晴、今江他助、古澤知則ごりあり、文法
のうそう、西工水齋さうそうあり、善徳寺、歓
明寮、水田太郎五郎、大澤喜六、今泉角左
衛門、是崎十左衛門、般若瀬百樹、太田正左衛
門、中野長兵衛、高松極人、鈴木助十郎、吉田
長俊、などのもうそうあり、

○十三日晴、太田單、和賀主のもうそう、

うそう、片岡寛光了、阿法師、石齋、藤原
三彦、齋なども、さうそうあり、神主、石吾を
はじめ、年寄の、ひとびとの、ふるまひ、
やうしうるおのかの、
もてなしもうそう、三彦、齋このもうし、

あり、ひるまぎれ、
あるこみ風を、さるなり、古澤知則、武
蔵野、話三冊をもてきうそう、夫のみより
岸本田豆流うそういきて、ゆうもてかりあり、

○十四日晴、石田眞うそう、文つうそう、小石

三思鳥海系相模国高座郡上溝村の彦
八なるものなり　和賀主殿長尚次子国
寛光岩瀬新三助佐藤佐五右衛門
旗書棒ヨリ陰謀叢考保元
物語をよし岩瀬新三助名は幸豊白河
庄の出醫の子なり一柳子古の門人に佐藤
佐五右衛門名は貞濱松庄の藩医
庄の深川六軒堀の邸なり以貞の
談ヨリ賀茂真淵八濱松領地遠
江国敷智郡伊ノ場村の百姓のよし後ヨ

濱松の宿の本陣梅若市九郎の養ひて
なりしと人こと云以貞の若菜の歌ヨ
沢水ゆ水もとうたれて老ぬ水もも
ぬるるなるの菜ぬまれしけるうら
なるの河牡丹あきてもうら　寛光の
ゆのうら
あのつものいづるものでなるのうら
なうでかるもあるかはめ
今の世よりうるの水をなるもうら
しるべしし　和賀主の室舟の画賛ヨ

[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
沼川の運漕主事なるべし　松浦[illegible]
きしもり　相模国深見村の小林源内源[illegible]
知魯の弟なるべし　荒井永知の[illegible]
[illegible]つげおくやうにとのこと　[illegible]
[illegible]世物を延底[illegible]
○十五日晴　弘賢主の許へ[illegible]陳餘
叢考をかりつ　五句題句をかりつ　小

谷三思のもとへ[illegible]
守国寛光来る　狭衣草紙をよむ子
の時ごろ日本橋呉服町火のさゝぎ
丑の時より青物町少し出て暁よりおよぶ
なきこと
○十六日晴　朽ちよりて雨いとゞ[illegible]
風あり　井野石齋ごとより
[illegible]て亀石をおこす　石井澄
時古沢知則　杉浦茂宣なども
弘賢主より[illegible]　村田の[illegible]

又おなじき稲荷の神社に杉をうえ
みなもとのあるうち
いなり山にある杉のこれをうえ
さこのあんまのかけやくのまん原射給
まし十日より月まうしうしきこのる志
まうしうしの今出ちまつく
○十七日かうしうしたる宮のきろかたち
なりて片岡寛光まぎまあをなひて
山本正信のあの歌のまま毎年
梅とりつる兼題のうち

梅のもかくさのつぼばとそこのおさなく
梅のあるまうしうしの松真ときさ
ぐうしうし

男ぐはしはるる女馬の好うしもこぞ
のをうしまうしうしひそくる

○十八日晴浅草寺の観音うて護摩の法
を修す例の放生まうしなぎいをやり今江他
助ぐうしうしつのうしうし片岡寛光まぎまうし秋
衣草紙をまし拾よしうして望田陸門ぐ
病をぶよ

○十九日雨玉川てうの石保村なる本多舒
蔵千葉より一折ひさげてきたりし　片岡
寛光岸本由豆流ともなひて菊池桐
孫村田のしもと岡田真澄なとゝもくしまの
りあしもとゝのの歌会の兼題より早春風
を

春の海のなもかすみてうまでいき
うつ霞ゝなもかすみ

○廿日晴上野御行　ゆき岸本系三郎の
人のあるをーなのくるをまちとりてやしきに

植田儀蔵ひとりもとくてやりの和賢
主のもとくに立句頼句をなしまみて安江
他助古澤知則望田隆門のかをとゝのに
隆門ゆきひとりうなりまうてこれ
ゆきのうめ

○廿一日曇村田のしもと大田佐吉片岡寛
光潮音法師本多舒蔵まてもなる舎島
海茶ゆ柳橋の茗屋八郎兵衛ゆかりて発
舎せる方金百匹ゆしてて潮音よりとゝ
やうう

○廿二日晴雪降よりて雨ふりもよし小谷三思
齋藤彦麿片岡寛光望田隆
門の葬送より叔父やりてとぶらもし
○廿三日晴山東京傳片岡寛光小谷三思な
どまりてもあり京傳千菓子一折をもてきた
正木千幹の歌のあるよ霞沼春光といへる
前題のこし懐紙よりてやりつ
ゆもしもとつけたる人なし
ちくまよりしきたる和賀主の詠ども
聖護院蔵本の狭衣をやとりつ

○廿四日晴岩瀬新三助生鶴一尾をあこも
ちり和賀主大田掌片岡寛光などまりて
やうしたる物のそれ物よりて寛光まで
きて狭衣をよむ
○廿五日うしの雪ふりぬ片倉鶴陵きれり
和賀主寛光なとよりつゆもて洪
木豊国ぬりとぶよ
○廿六日晴中の月なれどうるはしきの日の
くもりよりもの丹野石齋来京書ぬり
いまあり

○十七日晴北風さびしく雪あり了阿法
師まで参る三代實録今れの人やかた
佐藤左立右衛門 濱名納豆をもち
きしまうてハ濱の名の摩訶耶寺道
はるかなりとて東海道名所記三の巻廿九
夢よ松山よりはぎまで三里師山あり濱名納
豆とりあつかりより和尚とさてるこまし
さの老翁より陸離叢考をかりて
○十八日晴風さびしく島海茶もつもり
○十九日晴申の刻より雨あり弘賢堂へ

又まゐる井野右衛門高年竹岐ヶ谷
大田掌元より やきそこあり
晦日晴新年まゐる平野舎所まゐる
やりとりよりはきていでらの平野と崎三
郡よりて見沼代用水のほとり板橋の
名戸田のつゝ歌名浦和宮なでまゐる
大宮富士まゐりひらの手あること
なりしのぼりより二十町ばかりまゐる道を
右のかたとり富市とよりて平野よ
はきしハ申の刻ばかりもものなどひらひて

日の食よりさより二里許東よさのりたる
下早見村よしきて御普請役和田帯七郎
とうやまうつりめく平野へ参りて何あとし
酒なぞのみてやりなるこんハ子の時ごろ
まぞありける

二月 辛卯 大

○朔日あしたより雪ちりて子の時ちかく
よりはれぬ平野の會所を出てきぬ
の里を桑市などにまてて大宮のすしの椨
屋よいこひてかの江湖のこつかふ長
食して戌の時よりてはどいりに杉浦
花近まうてきしとりしぞ今江他助へ文
おくりあきのよし弘賢主の許よりかへりごと
ありき

○二日晴竹倉鶴陵より文つかはし 弘賢主

三好侍従平正木千軒片岡寛兄弟
きあ日自て古屋安子今江他助望田
氏ちゝぶ

○三日晴南風いとけし　小野藤九郎主
荒井一郎助石川勘大夫かとうあとよ
らふまれの方のよりて了阿陳師
吉田東元なとも京都日自て東
京ゆきとて

○四日晴りあ南風ちゝけし　井
野石翁　秦東馨　西江他助

古屋安子の岸本中右京屋
あ由豊流の後指豊摂津の波をちてやう
う

○五日曇未の刻ちうあ霧雨の猿蔵
近江屋中屋庄八まとて　杉浦茂吉
もしもとり石川勘助を吏うあとよ
由豊流のまく　嵩本中右衛門
○六日雨　栗本中宇右衛門　山本中正臣
あ　杉とりて正臣うとあきあ
村田のちゝよりあうとよ

[illegible]

○七日晴 屋代弘賢主へ[illegible]

○八日曇 申の刻より雪降る 今日は

初午にて稲荷祭なり[illegible]

庭中の稲荷の社へもまいり雷鼓[illegible]

[illegible] 国友勘蔵 小俣七郎[illegible]

[illegible] 勘蔵は伊勢久居の君の家来[illegible]

[illegible] 宣長の門人[illegible]

○九日雨 午の刻より晴 小俣七郎[illegible]

[illegible] 井野石齋 [illegible] 徳寺 [illegible] 明[illegible]

[illegible] 水野藤九郎主の[illegible]

[illegible]

○十日晴 風[illegible] 阿佐師[illegible]

三代實録 [illegible]

右馬[illegible]

○十一日晴 岸本由豆流 山東京伝 戸倉

鶴陵 荒井一郎助 [illegible] 矢江他

助望田陸門の[illegible]

○十二日晴 田中[illegible] 水野藤九郎

主法木豊国庁昱寛光[illegible]

○十三日晴 吉田長敞[illegible]

○十四日晴 甲子祭[illegible]福引[illegible]
[illegible]を[illegible]家の[illegible]
[illegible]阿法師[illegible]
[illegible]書[illegible]太田佐吉
女の所子女[illegible]布打三人[illegible]
[illegible]
○十五日晴 吉見鍛吉[illegible]

6

[illegible]太田[illegible]他助[illegible]
[illegible]島海[illegible]
○十六日 岸本由豆流 同茶三郎 [illegible]
[illegible]
○十七日 雨中[illegible]晴 島海茶 丹野石
斎 山本信[illegible]
寛光 廣名有 茶[illegible]
○十八日晴 阿法師 丹野石斎 庁昱寛
光[illegible]
○十九日 晴 庁昱寛光 岸本由豆流 齊藤

彦蔵[illegible]
光太田佐吉女藝者ちよ市松などゞて
太田屋[illegible]
大坂嶋の内の藝子[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○廿日雨 弘賢主岸本[illegible]

保元物語をゝゞ[illegible]
○廿一日晴 升坂島子[illegible]
[illegible]
○廿二日晴 太田屋[illegible]
[illegible]
藝者市松太田佐吉[illegible]
○廿三日 弘賢主人[illegible]
[illegible]
○廿四日晴了 阿法師[illegible]

知賢主へ文つかす　島海苔ゑもんより
端山石鏡先より　西二枚おこす
○廿五日雨　勝田齊　まてきて三月十四日書
西振舞の　出席をこふ〳〵なひてやる
○廿六日晴　石井　武時　朝長尚次まてきて
○廿七日晴　島海苔　山東京伝　太田佐吉
とき佐ごろ
○廿八日晴
○廿九日晴了　阿佐師　齊藤　三好俊
平唐本屋　左八　まてきて

○晦日雨　知賢主　太田畢
そこあり
○朔日晴　三月小　壬辰
ちゝあり　彩色　高沢　まてきて　合巻　江戸暦
も　太田佐吉　ちゝ
○二日晴
○三日晴　古澤　知則　太田佐吉　望田
太田畢　北川　真顔　世話　市松
きらごひて　西のうちあそぶ　畢ぬ

三くるとやとよなるそふ 柳の花ちるとて
よもやもぐ〳〵日のくもるとしまも出る
ぐ〳〵

さくらもわもさくらもかはやぶ
よもやもぐ〳〵日のくもるとしまも

内義雅はなみ南面をとらんん
橋也橋のうへ三民信くべつい者軍
ぐ〳〵〳〵千古蘭亭欠書經唯詩
墨帝墓辭賢不如尺尺鉢橋外
醉擁三四歳書白髮賦鉢橋は節

遣橋をさして軍のふりまぐる
人の方なるぶかくいたるもるなく
○四日雨大田軍のもとくもりてあり
和賀主のもとくもりあり

○五日晴南風辺田軍勝
田沼りとのもとくもり井坂
鳥ゑもとくもりて松森寺まで那よりも
北川真顔やとくもりて今日一折お
ゐ〳〵

六日晴南風了何法師まじきて

[illegible]

流れ[illegible]東風[illegible]

七日晴南風烈[illegible]

[illegible]

由豆流[illegible]

主し[illegible]

八日晴[illegible]南風[illegible]

[illegible]紙[illegible]紅[illegible]

意意[illegible]の高[illegible]

音物[illegible]古今著聞集[illegible]

[illegible]

[illegible]

新撰[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九日晴南風吹[illegible]

中[illegible]

[illegible]

ぶしはなしとめでたかりし御代を
いはひやうさまし今日私令をさだむる

文庫私令

凡請借書者必須留箱當之物為其質
覧上君無質者不許借焉
凡入庫内之輩勿漫開書函
凡四月納香葉於函中以禦濕
之外暴七月曝書冊於庭上以
治蠹魚之内賊其限始巳時終
未時不得使翰露晩風犯之

在宅之日　十五日　廿五日

五日

十日晴辰時地震未時より南風起
り阿闍師三好俊平山東京伝など
より抄録をおくる書本屋庄八
坊倉鶴陵寺国寛光まづきぬ大田
覃よりも文つかはし
十一日晴朝長尚次まねきて会津藩
あるじ唐本庄八まゐり北嶋雪
さそこしきこつるまで麹聚三代格など

[illegible]して法木豊迄ぐるい
きてうさる船屋忠七ぐらふる之よし
ぬ

十二日晴風そびし　太田覃北川真顔
岸本中田豆腐行倉鶴陵ともなりて
陽田川の堤なる櫻又よいまあ岩村
屋の屋根舟おくるとふ山
藝者をわてあく花[illegible]吹てあ
さくうとうひろ
九ときうれい花ときみ川

東のもも吹ときうとくちほきつ
えうさて舟をこぎもどして三谷拙
二番とりの料理茶屋にて酒のあ
そぶ日のくれまて大田覃ともよ岸加屋ま之
くこのまして大田佐吉ともよまうけて
よりぬ大田佐吉ともよまうけて
まらのこうげ　あそぶ女藝者の市松
あつまりなどいつ
十三日晴風唐本屋庄八鳥海茶き
岸本中田豆腐ぐもよりやう

[illegible]を奪ひ大田雲平印
賢主村田のしやうよう孝直[illegible]
よつてこれを古澤安[illegible]に
[illegible]

十四日雨了阿法師朝長尚次まで書
[illegible]れども尚次は拾ひてかりあり
十五日曇岸本田豆流より書きし
村田のしやうよう又つくし印賢主の許
より利本膳写の定神田記をもらひ
[illegible]難波人若山法吉の所蔵古印本の写

[illegible]のさくらよりくし本と同物とはいかが
しるものなるやおのまゝ別よ論あり
十五日曇唐本屋庄八平田豆流まで
十六日晴本間游清まあ平田豆流
村田のしやうよりもらひて拾
のいつての射[illegible]
十七日雨印賢主日のまるまるまで
十八日雨印午の射[illegible]
[illegible]田中鶴亀高見忠吾をもて神戸屋
の書写遣よりまづ印賢主[illegible]神

戸の老侯は本多隨翁と中巻をもて今
年九十三よりかさね高輪邸なる
喜壽亭にて尚歯會をもよおし執筆は
本多甲馬忠憲翁長老翁の列
みあるなりて壽筵を延き席をして酒膳をも
まうけ後邊言泰同風忠蔵弘賢主
など席をあらためしに
尚歯會夾名

百三歳　喜壽亭
菊池貞翁

百歳　田中権十郎
百歳　石寄源八
九十六歳　櫻井喜内
九十四歳　田中延壽翁
九十三歳　本多隨翁
九十二歳　亀山一吉
九十二歳　矢野三無
九十一歳　市川了和

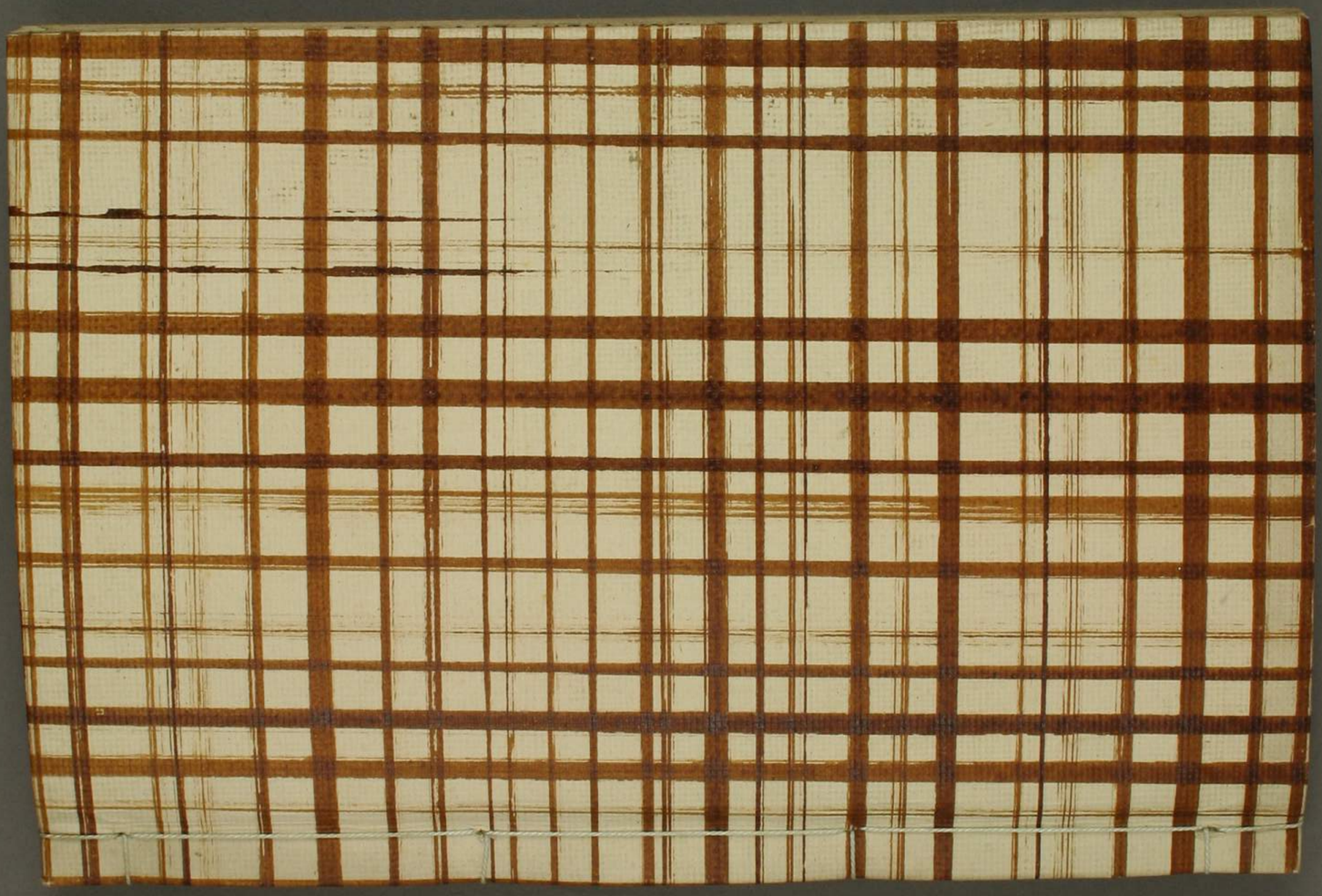
三月十有一日
執筆　藤原忠憲

余のこともまゐりまうし
神戸氏なのそのちあまりこつは
なにやかやといひしのはせたうり尚
学者ややおもしろくまかりけれはよろこん
なる
右のかたぢあまりみまくらかぞくさえて
すゑにくもとやかしとの梅字かきつらんど
山東京伝吉田長叔なとかみまゐりて
招めりのあらし味りてうつかなまてか
たゆまのり以和賢主すへ吉叔のかみすん

すまあつかりしか太田覃高本竹妓平
由豆流なとかのもよりやりてまへり画
工月岑書画指會の出席をとふ宇野
友蔵をして西武蔵相模国てくりのまで
くみもとよ田のしむ荒居一郎兵衛以譲
幸惣兵衛稲田中忠右衛門季正荘京田
郎兵衛嶋崎得太郎小林熊蔵田中惣
右衛門なとこそみやくそまとて
十九日雨朝長尚次まできえて日くをし今
義鮮身鮮なとふまむ安とひかりて世りは

廿日雨午時より晴　平田豆腐ごちそう
やうしてこゝにあり　歓明寺一文つゝ田
中善忠島海松　[illegible]
[illegible]　和賀主の家より
あたゝかもい和賀主を待しとあるかり
しはたらし本立ちあがるころし
廿一日雨平田豆腐村田七子田中善忠
[illegible]
[illegible]
[illegible]　霊巌寺歓明大徳を
招待す明日は世話をするなり　祥月
あるべし
廿二日[illegible]
[illegible]　霊巌寺中歓明寺
[illegible]
て朝長高次まいる
廿三日晴平田豆腐ごちそう　延喜式
[illegible]　古沢安子
[illegible]　阿住師今江他助

[illegible]又つのくに丹野石齋年ごろ
[illegible]ばかりしはべりてまでもしてもてまで
廿四日晴山崎新次郎島本何兵衛のもとと
[illegible]太田佐吉まで[illegible]
廿五日曇りて雨平田豆流唐屋
庄八藤本彦[illegible]山東京伯[illegible]
[illegible]長尚次[illegible]
廿六日曇る河法師まで[illegible]
廿七日晴藤河曇なるあひ梅をとる
[illegible]田中

多[illegible]村田の[illegible]
藤彦[illegible]又つのくに
廿八日雨未の時[illegible]
清岸本田豆流河原孫之丞[illegible]
[illegible]太田聖北川真顔鳥海松[illegible]
正木千鮮万葉植[illegible]
[illegible]
木豊国[illegible]
[illegible]
廿九日曇りて雨丹野石齋

[illegible]武田元光ゴ自
筆本の金葉集もとりの元光は
若狭国氏ゑ平安の武田と同族ニ大永
より天文の比の人なるゆゑ弘賢主
のもとよりやうそこあり友蔵ハ山田
より四ツ[illegible]ゆゑ[illegible]
[illegible]